

荒川区区政改革懇談会

第9回福祉・健康・子育て分科会 議事要旨

【日時】

2月16日(金) 10:00~12:00

【場所】

荒川区役所 3階特別会議室

【次第】

ステップ1：今日のプログラムの説明

ステップ3：その他(発表者の選出)

ステップ2：提言(たたき台)についてのフリー
ディスカッション

ステップ1 今日のプログラムの説明

前回のディスカッションに引き続き、提言のたたき台について話し合いたい旨説明があった。

ステップ2 提言(たたき台)のフリーディスカッション

- ・皆さんに資料を読んでもらったのでアイデアがでてきたと思う。それをどんどん膨らませていったらどうか。
 - ・ファックスを送って、その結果がきていると思うけれど、まず「目指すべき将来像」のようなものはなかったか。
 - ・今回はそれを載せる、載せないを決めたいとの話だったと思う。
 - ・障害者福祉の分野で障害児と健常児の共学は大賛成。障害児にとっては暖かい友情が理解でき、健常児にとっては健康である喜びを感謝できる。他に障害者が高齢になれば何らかの制度を受けることになってくるが、その人にとって必ずしも必要としないものまで受ける現状があり、様々な制度や行政の取り組みが本当に正しいのか、もう一度生きる喜びを育めるような施策を考えてほしい。この部分は、今示している中では取り込んではいない。
 - ・一つの例であるが、3 ページ目のトイレの話で障害者用と一般用を区別するために障害者用の表示を貼ってほしいというのがあった。一方、積極的に支援するとか、地域の人とのつながりを大切にしているというのがあった。後者は何か抽象的で国会答弁のようであるが、前者のトイレの話は具体的すぎると思う。そこでこの提言は具体的に出した方がいいのか、それとも一般的レベルでいいのか基準がほしい。他のグループでの提言のレベルを教えてほしい。
- 他のグループでは、テーマを絞っているのでも、提言を細かく出している。
- ・具体化できるようなものを深めて、アイデアや文章で内容を増やした方がいいと思う。ほとんどが答弁のようで聞いていて気持ちがいいが、具体的に何をするのがいいか。

皆さんからもう少しブレークダウンした意見をもらいたい。教育の話しだが、軽度の知的障害児と健常児が同じクラスに居るけれど、学校で養護教員一人だけではどうにも足りないので、子どもたちをサポートする人員を配置したらどうかといった意見が出されている。

- ・普通学級では先生が障害児のためにドアを開けたり閉めたりして、授業が成り立たちにくくなっている。一般の保護者の理解も得られていない。
- ・その子の親たちも子どもにどう対処していくのか分からないし、どう支援していくのかも教えられていない。
- ・養護学校では専用バスの送迎があり、さらに2~3人に1人の先生がついて専門の教育がされている。
- ・学校では障害の子は放ったらかし状態で先生も注意したりはしない。どうしても人が足りない状況としか思えない。
- ・明らかに知的障害が分かっていたら養護学校や他の施設へ行くことが必要だが、問題はそこまで障害がないが、知的に遅れている子どもたちだ。その親は近所の目を意識して養護学校に行かせないのが常であり、普通学級に行かせたがるのも理解はできる。
- ・学芸大学の上野先生が中心となって練馬区にLD児対象のあさひ学園を開いているが、一般的にLD児へどう対処するのか、そして親も分からない状況である。
- ・自分の子の将来を相談するところ、LD児を専門的に相談してもらえぬ施設すらない状況である。
- ・昔はLDとかADHDという名称がないので、授業中に集中力が足りない子は怒られたり抑えられてきた。だが今、特徴ある分野で活躍している事例もある。あのトムクルーズだって字を読めないで音声でセリフを覚えると言うし、障害があっても一般社会で十分活躍できる人がいるので余り別枠にポンと置かない方がいいと思う。
- ・学習障害とか知的障害などの専門のセクションがないので、そういうのをくくった提言がいいのかなと思う。
- ・学校の中にLD児の親とLD児の友だちの親と一緒に啓発教育をするチャンスを作ったらどうか。この荒川区でもそういう啓発するセクションが必要なのだと提言する。
- ・学校に一つくらいあってもいいのでは。今、急に増えてきたような気がするが、ネーミングが増えたのでそういう感じもしないではないが、とりあえず親たちに指導するというスタンスで進めたらいい。ただし、いつ指導するかはタイミングはよく分からないが。
- ・学校のPTAで保護者会を開いているが、そういうのではなくて学校レベル、区レベルでの機能というのが望ましいと思う。
- ・国も昨年、学校教育法を改正して特別支援教育が始まったが、それに応じて区の中での相談員というスタイルがいいのか。
- ・専門知識を持ったサポート相談員、例えば学校側から要請があった場合、増員できる体制がいい。
- ・スクールカウンセラーが配置されているが、LDとは違った分野の相談で来ている。
- ・病院との関連で、学校では限界があるので行政がパイプ役となって、専門医と連携をと

るというのはどうか。

- ・LDは病気ではない。
- ・専門病院としてやっているところもあって、専門的な勉強をしたか、しないか分からないが、何か行動がでてくることも考えられる。ただし他の県だが、現在は連携が取れていないのは事実だ。
- ・学校に相談員か相談室みたいなものを設置するのを提言に盛り込むべきだと思う。そういう意味で特別支援教育と書いてあるのだから。
- ・分野が違う話だが、4年生くらいから学級編成で一緒に就学するのか、いやそうではなくて勉強のできる子は度合いに応じて勉強させたいという意見もある。障害者福祉的発想とは別に、習熟度別に分けて、やりたい子にはどんどんやらせるという考えがある。一体どの辺が落としどころなのか。
- ・すごく難しい問題だ。LDやADHDというのは良く分からないが、知的障害でも可能性がある人と学習障害で可能性がある人がいるらしいが、可能性のあるということは大変だ。可能性がない人は勉強をしないで働けばいいのだ。でも選ぶ権利は障害者である本人たちにあるので養護学校に行くのか、行かないのかなどは、まわりに振り回されないようにしなければならない。
- ・そもそも学校はどうあるべきかを考えなければいけない。LDやADHDだと、例えば自閉症だと養護学校は受け入れてくれない。算数は全くだめだが国語をやると非常に良い文章を書くような魅力的な子が多い。LDやADHDの啓発活動について区で相談員を置いても良いし、子育て支援センターみたいな所で、もう少し話しができたらいい。
- ・仕事にはジョブコーチがいたりするので学習にもコーチなり相談員、専門の人が必要だ。
- ・先生の中で得意な人もいるが、それが専門の人はいない。
- ・親も自分の子は大丈夫だと思っているのは、よけいダメなのではないか。
- ・普通の未発達児なのか本当の発達障害児なのかを区別するのは素人には難しい。
- ・やはり学校から発信するのが良いと思う。大体20歳を過ぎるころから、脳機能が自然に発達していけば解決してしまう問題でもある。
- ・実際に経験された方の話しを聞く機会があればいいのだが。
- ・こういう事例がある。偏差値が高い子だが授業中、ほふく前進してきて気がついたら机に座っていたなど学力と違って扱いが非常に難しい子が、6年生を過ぎたら麻布に入っていたなどのケースはざらにある。
- ・その人の責任ではなくて生まれながら持っている人、勉強をしてもできない人、仕事に就きたくても就けない人がいるが、理由があってそうなっている。だから区としてもLDやADHDについて、もっと教育だけでなく研究をしてほしいのと、都や国に対して働きかけてほしい。安全安心、生涯健康、子育てなどを掲げているけれど今こそ提言してほしい。
- ・よく「連携をとる」という言葉が使われるが、実際のところ連携は取れていないのが実情ではないか。例えば「障害者の会」の会では「がい」と表現するがそれが徹底されていない。障害者自立支援法では漢字だが、荒川区の場合は障がい者とか障がいのある方

- など文章にする時はひらがなと決まっているが、これから啓発されていくと思う。
- ・学校のPTAも互いに連絡をとるだけで終わっていて、具体的にどう動くかは曖昧だ。
 - ・ある人に任されてしまうという現象がある。
 - ・ある大臣のように、ものの基本的な認識が言葉の使い方に表れてくるのではないか。もしも本気で取り組むならこんな例がある。健常児同士があるテストのとき「お前こんな問題もできねえのか。お前、心障なのじゃないか」と会話していたが、それを聞いてたまらなく嫌な気分になった。でも良く考えるとその言葉は放っておいて身についたものではなく絶対に身近にいるおとなが使っているのだと思う。だが子どもは教えれば直るが20歳過ぎたら聞く耳を持たないので、一番良いのは単語選びから教えた方がいいかもしれない。
 - ・今、基本的なことが足りないので、いま言ったことは重要なことで、テレビでも人の話を聴かないで途中で切るといった場面がしばしばあり、おとな全体の社会が病んでいるのではないか。ちょっと前の話したが中学生がルールを破る、その時、政治家もルールを破っていた状況をどう見るかなのである。
 - ・子育て支援については何かあるか。
子育て支援については「核家族を望み、集団に溶け込もうともせず、子育て支援だけはしてほしいという意見には何か矛盾を感じる。子育て支援を受けた人は子育てで困っている人たちを支援するという連鎖方式で育成していく必要がある」「親と子の対話時間を持ち、お互いの人格を認め合うなどの成長時期を見守り、支援づくり事業が大事になる」「くらしの中に地域交流をよみがえらす施策が必要だ。買い物一つとっても大型店舗が進出して安い価格でさえあれば良いという考えがはびこり、安価でしかもアフターサービスが行き届いてお互いに支え合うコミュニティづくりの取り組みが急務」との意見をもらっている。
 - ・確かに子育て支援はいいと思うが、現状は両親が外に出て育てられない状況だ。砂場で子どもを遊ばせていて、それを見ている訳でなく携帯電話を一生懸命やっているというのは間違いで、もう一度原点に戻るべきだ。なんでもかんでも子育て支援という風潮は怖いので何かの仕組みづくりがほしい。
 - ・全く同感である。例えば、高齢化社会といって何でも高齢者を特別養護老人ホームへ送るのは、一種の言葉は悪いが、姨捨山といっても過言でない。結局、家庭そのものが人間はずっと一緒に過ごしていくのだという力がそがれてしまい、子育て支援支援でいうと実際に自分たちの育てる力を削いでしまう。そういう支援ブームが消えたとき我々自身の力がなくなっていく。一見、便利そうだが心までなくして、さらに一番大事な親子の絆までもなくしてしまう。親子の絆というのが実際に一緒にいる時間がないのでできない。公立の学校は力を抜かれてしまったので私立に行かせる、すると共稼ぎをせざるを得なくなる。何か渦を逆回転させるというのが必要だ。実際そうになると親子の絆も、上下左右の関係もぶち壊されてしまう。
 - ・私立に行くと近所の子と遊べなくなる。
 - ・小学校入学の時、公立か私立か迷ったが、最終的に幼なじみの子どもがいるという点で

公立にした。

- ・結局、子育てでも福祉でももう一回、本当の意味で心のゆとり、お金のゆとり、時間のゆとりを取り戻せる施策をやってほしい。
- ・現在、60～70代の方は小刀で鉛筆や木を削ったが、今の人はそういうことはなくて、デジタルで育っている。そのような人々と共存していくために、今の人は今の考えで提言するだろうが、もう一度、基礎に戻ってみる必要があるのではないか。
- ・副読本で嘘をついてはいけないというのがあるが、それを保護者もコメントするというしくみを作ってみたらどうか。だれも受験勉強で忙しいと思うがぜひ荒川区で復活してほしい。
- ・今の親たちは先生への要求は細かいが、人が言うことは聞かないという傾向がある。
- ・モンスターペアレンツというのが本当にやっかいである。
- ・高度成長時代に育ったが、そのころの正社員はよく頑張ったと思う。
- ・派遣社員の品格は国会のレベルでもいわれたが流れてしまったけれど、派遣社員と正社員の給与を同じにすることを荒川区が全国に先んじてやってもいい。我々としても、これは産業の分野で子育ての分野に入れられないのか。
- ・モンスターペアレンツの話だが、今の親は親になる練習が必要で子どもをつくるばかりではしょうがない。
- ・親の親が悪いのかどうかは鶏と卵の話しになり、最終的には人間をつくった神様が悪いことになってしまうので、現在の我々から下はしっかりさせようとするしかない。犯人探していうと最悪の犯人は政治家だろうが、やはりモンスターペアレンツは増えている。俺さま族といってお前は俺さまだというと、俺さまだと言ってくる子どもがたくさんいて、言葉が相手に届かなくなっている状況だ。
- ・うちの塾は割合子どもたちに目が届いている世帯の子が多い。それでもひどいのがいるけれど、実態はそういうことなのかと想像を超えている。塾の子ども達は、塾の目立つマークを背中に背負わせているので、電車などで騒いでいるとすぐメールなどをもらって、直ちに対応する。でも対応できるのは良いが、それ以外で分からない部分はどうすれば良いのか思案に暮れる。
- ・NHKの特集で、職員室でがなり立てる親、自分の子がしかられたので職員室へ殴り込む親、授業中に携帯を使っていたので取り上げたところ携帯を取り上げた時間分の料金を払えなど、常識では理解しがたいのがたくさんいた。
- ・子ども達にとって一番偉いのは先生なのだと、し向けなければいけない。
- ・対等の立場に立てなくなったのは戦前の権力者が強かった時代、サービスを受ける側は弱いというのが本当だが、今やすべて逆になってバランスが崩れてしまっている。支援を受ける側は提供する側の思いを、提供する側は受ける側の思いを汲んで、その上で対等という立場を構築しなければならない。
- ・ロールプレイングをやってみたらどうか。
- ・自分はお客さん、病人、高齢者になったりして、立場を変えてやるというのは大変恥ずかしい。

- ・ 特定の内容を取得するというアメリカの手法なのだが。
- ・ 相手の立場に立ってものを考えることができない人が多いので、一回、その立場に立たせるしかない。
- ・ 幡ヶ谷の東京電力に、高齢者体験コーナーがあり高齢になると筋力が衰えダメージが大きくなる体験ができるが、子どもたちも一度キッチンと体験させた方がいいかもしれない。
- ・ 言葉で高齢者、障害者に手を貸すというのではなく、相手の立場に立てないのか、頭が回らない状態の人が多い。
- ・ ロールプレイは思想から来たのであっても、言葉を伝えながら相手の立場に立つということが大事である。お互いに相談員になり相手の立場に立つということをやっているならば、行政もこのようなことをやってほしい、ということになっていく。
- ・ せめておとながやれば、やがてはついてくるのではないか。
- ・ ロールプレイだけでなく、インターン制度、つまり体験学習がいいと思う。
- ・ モンスターペアレンツを一度、教壇に立たせて子どもがどういう様子なのか見たらいい。
- ・ 塾では授業をビデオに撮っていて、もしも親が抗議に来たりするとそのビデオを見せて、お宅のお子さんはこういう状態ですと説明すると、その親は休み時間に下に降りてきたその子どもをいきなり平手打ちした例もある。やはり見せると分かる。
- ・ だからそういう親は一度、教壇に立たせてみるのも良いだろう。
- ・ 今やっておけば 20 年後、立派なおとなができてくるのではないか。その伝統が荒川区にはあると思うし、そういう意味で江戸文化を育ててきた文化技術者は世界に誇れる文化遺産であると言える。
- ・ この江戸文化を支えた人たちは偉いと教わって、今だに尊敬する。コツコツやって、それをキチッと伝承していく、宮大工もそうだが、そういうのが脈々と存在している。
- ・ 育児休暇制度があるが、荒川区の条例で必ず取らせるということではできないのか。
- ・ 私企業では、育児休暇をとって、今度出て行くと自分の席がないのだそう。
- ・ 国会の動きを待っていたらきりがないので、法律からはみ出した施策を条例でどんどん打ち出して行くのはどうか。それが地方分権だ。
- ・ 今、困っていることは優先順位が高いと分かっているし、財政的優先順位はどうかとの検討をすると、やはり都に準ずる、国に準ずることとなる。
- ・ 逆にそういう条例が必要なのだ。
- ・ 小学校の副読本の中に荒川の心を表すものをつくって全員に暗記させる。例えば会津では会津の白虎隊に結びつくようなものとか、吉田松陰とか定かではないが、その人が生まれたところでは子どもたちに文章を暗記させてしまって、それが心の支えとなり、生きる支えとなるという例がある。
- ・ 発達障害の子どもが増えているという。それがなぜかということを追及するために教頭職を退いて研究し、さらに一年前に宮崎大学の客員教授をしていたが教授の立場だと言いたいことも言えないので、教授を辞めたという人の話を聞いた。それによると母親の食べ物とか日用品に含まれる化学物質が妊娠中、特に 3 か月以内の胎児が吸収して、受けたダメージがその子の生涯にわたって影響するのだという。発達障害はここから来て

いるらしい。

- ・LDは圧倒的に男の子に多く8割近い。妊娠中5か月くらいまではすべて女性で、その後分かれていく。生まれて来る時には肉体のでき方が女性の方がしっかりしている。
- ・男の子は女の子に比べて未発達の状態で生まれてくるという。胎児の段階で何か化学物質が影響しているとはっきり言っている専門家もいるくらいなので、なってしまったからのフォローも大事だが、そのようにならないための親の教育も大事にしないといけないなと思った。
- ・そういう人から取り上げるしかないのではないかな。例えば妊婦はタバコを吸ったり酒を飲んだら罰するとか、あなたはおとなの判断でそれをしなさい、とかしなければならぬ。
- ・外食産業に頼ってはだめで、3~4日腐らないものは排除し、やはり手作りが大切である。
- ・先程の副読本の話したが、月に何回か学校などに子どもやその保護者、地域の人を巻き込んで、心の勉強会を荒川区として立ち上げる。その中味は今の食事の問題、荒川の歌をつくって皆で覚えるとか、いろいろな問題のための時間が取れたらいいなと思う。
- ・最初のLD問題も地域の子どもや親も巻き込むにはどうしたらいいのかな。
- ・学校だと授業時間に制限されるので、皆で勉強する時間があれば良い。
- ・学校に何でもかんでも要求すると学校自体がもたないと思う。今の話しはリサイクルとか環境の話から、いい食べ物に防腐剤をあまり使わないで、しかも近場で採れたものを食べるようにして、ゴミも出さないというスタイルがいいのではないかな。
- ・サークルみたいのがいいかもしれない。
- ・一度に全部ということではなく1人でも2人でもちょっとずつやっていけば、最後には何万人となるのではないかな。
- ・学校に関心がある人は来るけれど、関心がない人や本当のモンスターが来なければ意味がない。北千住駅前のオーロラビジョンは区政のことを放映しているが、必要だからあると思うが、何か嫌がる人もいるようだ。何かスーッと受け入れられやすいスタイルというものはないかな。江戸しぐさのように伝えるべきものを伝える何かが必要だ。
- ・時間と機会が必要だ。
- ・ただ伝統を伝えて行く必要はあるが、一つの基準としてそれで喰って行けるかというものもあると思う。
- ・行動は結構そういう部分があって、その体験談を出して食って行けるかは一つの視点だが、やはり努力というものが大切なのだ。教育によって後が育っていけば「技術そのものの伝授になる」のと「雇用の拡大」にもつながる。方法論として言えばライセンスをちゃんと付けければ全国から人が集まるかもしれない。
- ・社会を明るくするという似たような運動があるが。
- ・私の体験だが、1%のひらめきと99%の努力が必要だと思う。昔、商品開発の時に視覚に訴えるのはどういう方法がいいのかディスカッションしたときのことだが、その時に三越前の観音様の広場に陳列して視覚プラス、数を数えられる場所を設けた。そしたらその制作会社にその手法が全部広まった。時代が良かったのか、今では幼稚園みたいな

手法だが、運動とかデータとか文化系のものは、努力は必ず必要だ。荒川区もそうで、これからグローバル化して格差もどんどん広がっていくと思うので、ノウハウを持って皆に伝わらないものは高くなり、逆にそうでないものは価格がたたかれるような独自性をもたなければいけないと思う。今日は今日でなく、昨日より明日という発想が教育である。行動を起こす時に結果はこうなるというのは見識といい、判断力でもある。知識はいっぱい詰め込めるが、それだけでは改善は出来ないの見識も必要だ。

- ・話しは飛ぶが民生委員というのはどういう人か。
子どもでも福祉でも、何か困ったことがあると話しを聞いてくれて手助けしてくれる人。
- ・障害者からみると民生委員がどこにいるのか分からないし、障害者で一人暮らしの人は自分で役所へ行ってしまって民生委員にはかかわらない。
- ・民生委員の位置づけはどうなっているのか。
地域の中での一人暮らしの年寄りとか母子家庭、生活保護を受けている方々の相談相手になってもらい、巡回しながらどう対処していくのかを探っている。
- ・選び方は自分でなりたい人なのか区の方で一方的に指名するのか。
千差万別だ。一定期間そこに住んでいて地域のことを良く知っている人が地域から推薦され、推薦会で正式に決定すると厚生労働大臣から任命される。純粋なボランティアでなく東京都の準公務員となるが、月収はほとんどなく実費支給程度だ。
- ・児童委員の話したが、荒川区では児童相談所と連携して社会的立場の弱い人、問題行動を抱えた家庭を対象にしているが、それは相談支援として民生委員を通じた行動をしている。
- ・民生委員がせっかくいるのだから、もう少し活性化した方が良いのではないか。
- ・そういう障害者福祉とか健康づくりとかに、どういう人たちが係わっているのかフローチャート図みたいなものが必要だ。これだけ知らない人がいると連携、連携といっても話だけで終わってしまう。
- ・結局、分からないからいいやとか、何でもかんでも役所に行ってしまうとか、子どものことなら先生に言うってしまうという気持ちになる。
- ・荒川の心を10箇条くらいにまとめたいと思うがどうか。
- ・時間をかけて皆でつくった何かたたき台みたいなものがほしい。

ステップ3 その他(発表者の選出)

- ・発表者は、新井さんに決定した。
今回で懇談会は終了するが、今後提言に向けて発表者と協議してまとめる。

以上